

お話のせかいに入って音読げきをしよう
「お手紙」 アーノルド・ローベル作

めあて

「なりきり音読げきはつぴょう会」の練習をしよう。

- 【はつぴょうのしかた】
- ・四人一組で読む。
 - ・はじめからおわりまで読む。

1 場面をきめる。

- ・一の場めん ()
- ・二の場めん ()
- ・三の場めん前半 ()
- ・三の場めん後半 ()
- ・四の場めん ()

5分

2 だい本作りをする。

- ・かおマーク
- ・やじるし

5分

3 グループでれんしゅうをする。

- ・よいところ
- ・アドバイス

2.5分

【分かったこと・できたこと】

- ・がまくんがよろこんでいくところを、だんだん大きな声で読むことができた。
- ・かえるくんのくりかえしのどう作を、三回目は一番大きくすることができた。
- ・がまくんのあきらめているようすが分かるように、しょんぼりした顔で読んだ。

【8/11時間目 指導略案】 使用するワークシート(一〜四の場めん・音読げきはつぴょう会のすすめ方)

※本文を印刷したプリントを配り、台本とさせます。

活動のねらい

読み取ったことを基に、工夫しながら音読劇の練習ができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

- 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。
- ※ これまで読み取ったことを基に、自分なりに工夫をしながら音読することを確認させます。
- ※ 本時の作業は、黒板下にある時間を目安にしながら進めていくことを確認させます。

2 「なりきり音読劇発表会」の進め方を知る。

- 「なりきり音読劇発表会」の進め方を知らせる。
- ※ 全文を通して音読劇をすること、動作も入れることを確認させます。

3 グループで読む場面を決める。

- 話合いによって読む場面を決めさせる。
- ※ 四人一組でグループを作らせます。場面により読む量に片寄りがあるので、2、4場面を組み合わせた時、3の場面を2つに分けたりするとよいでしょう。

評価 音読劇に向けて進んで話し合おうとしている。

(ア-2)

4 台本作りをする。

- これまで学習してきた一〜四の場面までのワークシートを基に、自分の担当する場面の書き込み(顔マークや短い言葉など)をさせ、台本を完成させる。
- ※ 「ゆっくり」や「うれしそうに」などの短い言葉や一目でわかる顔マークなどで書き込みをさせます。
- ※ 台本は、書き込みができるくらいに行間を空けて本文を打ったものを配布します。

5 グループで練習をする。

- 場面の様子を考えながら練習をさせる。
- ※ 友達にアドバイスをしたりしながら、よりよい音読を目指していくようにします。

評価 読み取ったことを基に音読劇の台本作りをしたり練習をしたりしている。(イ-2)

6 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

- 音読劇では、相手意識をもつことが大切だということをワークシートの振り返り欄で確認させる。
- 次時は、「なりきり音読劇発表会」を開くことを確認する。